

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
330412088	国語科教育法 Language arts method of education	宮武 里衣			2	選択	2後期

科目の概要

前期開講科目「国語科（含む書写）研究」で学んだことを基礎にして、国語科の三領域の特徴を生かした学習計画を立案し、模擬授業として発表する。学習計画は、最新の小学校学習指導要領で定められた国語科の目的に従い、教材研究によって、児童に効果的な指導方法を考案する。DP1.3.5に関係している。指導者は公立学校の教員としての経験がある。

学修内容	到達目標
① 小学校国語教科書の歴史を理解する。 ② 「話すこと・書くこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導を具体的に考える。 ③ 「書くこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導を具体的に考える。 ④ 「読むこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導を具体的に考える。 ⑤ 教科書教材を用いて、領域の特徴を生かした学習指導案を作成し、模擬授業をする。 ⑥ 国語科におけるICT指導の方法を理解する。	① 小学校国語教科書の歴史を理解できる。 ② 「話すこと・書くこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導の方法を獲得する。 ③ 「書くこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導の方法を獲得する。 ④ 「読むこと」の領域の目的や内容を理解し、学習指導の方法を獲得する。 ⑤ 教科書教材を用いて、領域の特徴を生かした学習指導案を作成し、模擬授業に活用できる。 ⑥ 国語科におけるICT指導の方法を理解して、模擬授業に活用できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、教科書・文献等を使って自己学修することができる。
	働きかけ力	
	実行力	目標達成に向けて課題を最後までやり抜くことができる。
考え抜く力	課題発見力	講義や文献、グループ活動等で得た情報を客観的に整理し、課題を見出すことができる。また、自分の模擬授業の経験から、授業者としての課題を見出すことができる。
	計画力	
	創造力	課題や問題提起に対して、さまざまな観点から柔軟に考え、新しい見解を持つことができる。
チームで働く力	発信力	調べたり、考えたり、話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。
	傾聴力	講義や他者の意見をよく聴き、自分の考えを構築することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	無断欠席をせず、授業に集中することができる。課題等を決められた期日に提出できる。
	規律性	
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

『あたらしいこくごー下』『新しい国語五』東京書籍
『小学校学習指導要領解説国語編』最新版

他科目との関連、資格との関連

「国語科教育法」は専門科目であり、小学校領域の教科及び教科の指導法に関する科目の一部である。この領域における基礎・基本となる知識・技能を習得し、その前に履修した「生活科教育法」を引き継ぎ、その後の教科教育法の基盤となる科目である。小学校教諭免許との関連がある。

学修上の助言	受講生とのルール
事前に教科書の該当範囲を読んでおく。 授業内容を「授業ポイント」に丁寧にまとめる。 クラスルームにあがったスライドについては、notebookLMを利用して保存し、小テストの前には復讐すること。	遅刻3回で欠席1回とする。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント				
学修成果	学期末試験	0	①	⑥				
			②					
			③					
			④					
			⑤					
	平常評価	小テスト	0	①		⑥		
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		レポート	60	①		✓	⑥	知識の獲得 ①学習指導案について次の観点で評価する。(30%) ・展開と目的との関連 ・主発問の適正度 ・時間配分 ・児童の発達段階との関連。 ・板書の計画性 ②レポート「国語教科書の歴史」についてを次の観点で評価する。(30%) ・史実との相違がない。 ・教科書の歴史と歴史との関連が書かれている。
				②		✓		
				③		✓		
				④				
				⑤				
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①		⑥	知識の活用 ①模擬授業を次の観点で評価する。(20%) ・展開が児童の発達段階に適している。 ・発問が教材の良さを生かしている。 ・授業技術が児童の実態を意識している。 ・教具に工夫が見られる。 ・良い授業にしようという心構えがある。 ②他者の評価を適正にできる。(10%) ・評価表への記載が全項目できている。			
		②	✓					
		③	✓					
		④						
		⑤						
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	⑥	（主体性）到達目標に向けた課題を行うのに必要な知識について、教科書・文献等を使って自己学修することができる。 （実行力）目標達成に向けて課題を最後までやり抜くことができる。 （課題発見力）講義や活動から自分なりの課題を見つけることができる。 （創造力）課題や問題提起に対して、さまざまな方向から柔軟に考え、見解を持つことができる。 （発信力）考えたり話し合ったりしたことを的確な表現で発表することができる。 （傾聴力）講義や他者の意見をよく聴き、自分の見解を持つことができる。 （規律性）遅刻をせず、授業に集中できる。課題等を期限までに提出できる。 ・上記の能力要素のレベルに則り評価する。		
			②	✓				
			③	✓				
			④					
			⑤					
総合評価割合		100						

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
A(優) 指導内容、授業方法、授業技術に関して、指導要領に則った説明ができ、アイデアを出してグループ活動（態度・進行・発表）ができる。 S(秀) Aの基準を十分満たしている上に、グループの推進力になっている。指導案や活動に個性的な思考・判断・言動が認められる。	B(良) 指導内容、授業方法、授業技術に関して、指導要領に則った説明ができ、グループ活動（態度・進行・発表）が円滑にできる。 C(可) B基準を満たしていない。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方を理解する。 ・戦前の国語科教科書の歴史を理解する。 	講義 ディスカッション	国語科の教科書が国定になった理由を理解している。	(予習)「学泉ノート」を読んで、学修に向かう心構えを確認する。 (復習)授業スライドを利用して授業ノートにまとめる。	90	主体性
2	<ul style="list-style-type: none"> ・戦中・直後の国語科教科書の歴史を理解する。 	講義 ディスカッション	・戦後の教科書が検定であることを理解している。	(予習)戦後の日本史を調べておく。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント①」に整理する。	90	課題発見力
3	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後から現代までの国語教科書の歴史を理解する。 	講義 グループワーク	・現在の教科書と学習指導要領との関係を理解している。	(予習)5年の教科書を読んで、指導のポイントを考える。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント②」に整理する。	90	実行力
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の指導の目的と内容を学ぶ。 ・「説明文教材」の定義と指導方法を理解する。 ・1年下「いろいろなふね」の学習計画を立てる。 	講義 グループワーク	・説明文教材の定義を理解している。	(予習)1年下「いろいろなふね」を読んでくる。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント③」に整理する。	90	傾聴力
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の指導の目的と方法を学ぶ。 ・「文学的教材」の定義と指導方法を理解する。 ・1年下「おとうとねずみチロ」の学習計画を立てる。 	講義 グループワーク	・「おとうとねずみチロ」のテーマが理解できている。	(予習)1年下「おとうとねずみチロ」を読んで指導のポイントを考える。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント④」に整理する。	90	働きかけ力
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識及び技能」の指導方法を学ぶ。 ・指導内容と系統を理解する。 	講義 グループワーク	・漢字の学年配当を理解している。	(予習)「学習指導要領」の漢字の担当表を確認してくる。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント⑤」に整理する。	90	創造力
7	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科授業づくりの言語技術を学ぶ。 ・各領域の指導技術を二つずつ理解する。 	講義 グループワーク	・文学的教材の指導技術の一つを再現できる。	(予習)5年教科書の中から好きな教材を読んでくる。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント⑥」に整理する。	90	計画力
8	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の指導の目的と方法を学ぶ。 ・インタビューの指導を理解する。 ・5年「知りたいことを聞き出そう」の学習計画を立てる。 	講義 ペアワーク	・教科規準の書き方を理解している。	(予習)5年「知りたいことを聞き出そう」を読んでくる。 (復習)授業の振り返りを「授業ポイント⑦」に整理する。	90	課題発見力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の指導の目的と方法を学ぶ。 ・意見文の指導方法を理解する。 ・5年「事実と考えを区別しよう」の学習計画を立てる。 	講義 ディスカッション	・教材の内容を生かした単元計画を考えようとする。	(予習) 5年「事実と考えを区別しよう」の単元計画を書いてくる。 (復習) 単元計画を完成させる。	90	柔軟性
10	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」を中心にした学習指導案を考える。 ・5年「弱いロボットだからできること」を教材とする。 ・指導目的、評価規準、単元観と児童観を作成する。 	講義 ディスカッション	・単元観と児童観を生かした単元計画を作成しようとする。	(予習) 単元計画の構想を確立する。 (復習) 後半の単元計画を完成させる。	90	状況把握力
11	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」を中心にした学習指導案を考える。 ・5年「弱いロボットだからできること」を教材とする。 ・単元計画と本時案を作成する。 ・効果的な板書の書き方を理解し、板書計画を作成する。 	講義 ディスカッション	・本時の指導の書き方の基本が説明できる。	(予習) 本時案を考えてくる。 (復習) 本時案を完成させる。	90	創造力
12	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」を中心にした学習指導案を考える。 ・5年「弱いロボットだからできること」の教具の作成をする。 ・ICT機器を教具として有効に使う方法を考察する。 ・児童の発達段階を理解した教具作成を行う。 	講義 ディスカッション	・ICT機器を教具として有効に使う方法を考えようとする。	(予習) 必要な教具をリストアップする。 (復習) 教具を完成させる。	90	創造力
13	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業(1回目)前半グループが模擬授業をする。 ・授業評価のポイントを理解する。(①45分の組み立て、②板書、③児童とのやりとり、④準備、⑤達成度の5観点) 	模擬授業 ディスカッション	・①45分の組み立て、②板書、③児童とのやりとり、④準備、⑤達成度の5観点で、授業評価をしようとする。	(予習) 模擬授業の練習をする。 (復習) 授業の振り返りを「授業ポイント⑧」に整理する。	90	課題発見力
14	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業(2回目)後半グループが模擬授業をする。 	模擬授業 ディスカッション	・①45分の組み立て、②板書、③児童とのやりとり、④準備、⑤達成度の5観点で、授業評価をしようとする。	(予習) 模擬授業の練習をする。 (復習) 授業の振り返りを「授業ポイント⑨」に整理する。	90	働きかけ力
15	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業を振り返り、成果と課題をまとめる。 	模擬授業 ディスカッション	・模擬授業を通して学んだことを今後の実践に生かそうとしている。	(予習) 「授業ポイント」を整理する。 (復習) 授業の振り返りを完成させる。 Googleclassroomに提出する。	90	実行力 課題発見力

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力